

# 「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 26 年	11 月	1 日
所属部局・職	理学部附属 瀬戸臨海実験所	
氏名	吉川 晟弘	

<b>1. 派遣国・場所</b> (○○国、○○地域)
日本 鹿児島県屋久島市
<b>2. 研究課題名</b> (○○の調査、および○○での実験)
シダ植物の配偶体における種構成とフェノロジー
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)
平成 26 年 10 月 18 日 ~ 平成 26 年 10 月 25 日 ( 7 日間)
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (○○大学○○研究所、○○博士/○○動物園、キュレーター、○○氏)
京大大学生態学研究センター 工藤 洋氏 香川大学教育学部 篠原 渉氏
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
今回の実習では、屋久島におけるシダ植物の前葉体および胞子体の分布様式を明らかにすることを目的とした。 胞子体および前葉体の採集は、宮浦川で3地点、女川で2地点、および華上川の1地点で行われた。各地点は低いところから高いところへと順に選択した。その後、胞子体を同定し、乾燥標本とDNA解析用の標本を作製した。前葉体は形態からの同定は不可能であるため、採集された状態で持ち帰り、続いて行われるゲノム実習で利用することとした。  本実習では合計52種の胞子体が確認された。宮浦川では3地点、女川では2地点、華上川では1地点の採集を行ったが、1地点における種の多様性が最も高かったのは華上川であった。華上川では21種の胞子体が確認された。 採集地点の標高が高くなればなるほど、前葉体の発見率が少なくなることが示唆された。これは標高が高いところでは前葉体が生息しにくくなるのではないかと考えられる。前葉体の種の同定については、続いて京都で行われるゲノム実習で、DNAを用いてBRAST検索することにより行う。  ゲノム実習では各地点の胞子体および前葉体の種構成を比較し、シダ植物の分布パターンについて考察する。また、昨年春に行われた植物班の実習データがあるため、今回のデータと比較し季節によって分布パターンに違いが現れるのかを考察する。

Photo. Identifying species and making specimens for DNA analysis
<b>6. その他</b> (特記事項など)